

談話室/事務局からのお知らせ

花

渡 辺 ともみ

日本ペイント(株)中央研究所

私は、深紅の大輪のバラが好きである。第一豪華で、誰の目にも鮮やかな印象を与えるではないか。

近ごろは、高級自動車も深み感のある深紅や引き込まれるような紺青のカラーが好まれているようである。その車体は鋼鉄でできており、塗装されているので美しい上に錆もこないのだと誰でも承知している。しかし、その金属素材と塗膜の間に化成処理膜が存在していることは一般には認識されていない。

化成皮膜とは、名はあくまでも陰に、一端ご下命あれば、いかにしても錆から金属車体を守り、死して屍拾う者無し、では何処ぞで聞いた台詞ではないか。屍とも言える重金属を含むスラッジが公害のもとになるというの

で、化成処理のいらぬ金属素材とか、化成処理を省いても密着性も耐食性も万全の塗料とかが待望される。化成処理の正体は、亜鉛やニッケルなどの重金属とりん酸、硝酸などを含むりん酸亜鉛皮膜である。確かに大量に存在するときは公害のもとになりかねない要素ばかりを含んでいる。だから化成処理は、必要悪だなぞともっともらしく言われたり、りん酸塩皮膜はもうたくさんだ、脱りん酸塩になるべきだという正論がきかれる。しかし、生体の骨と、肉の関係を思い起こしても、りんと有機物は、無類に相性がよく、亜鉛と鉄は、防錆という機能からみれば、これまた無類に相性がよい。自然の摂理にかなって、基本的には 90 年近いライフを持つつりん酸塩処理の技術を生かしていくのか、踏み越えていくのかがまさに問われている。踏み越えるアイデアがでるまでは、生かす工夫をして、ひそやかに、けなげな花を咲かし続けるほかはないと思う。大輪の深紅のバラばかりが花ではない。よくみれば、目立たなくとも楚々と咲く野菊もやはり美しく好ましい花である。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

● 研究振興資金についてのお知らせ ●

本会は一般会計事業のほかに、特別資金により特別会計の事業を行っております。この事業は「表彰事業ならびに特別事業規程」により定められ、その原資として「特別資金規程」による 13 の特別資金が設けられています。

今回、関係各位のご協力により設定された 5 億 4,350 万円の鉄鋼研究振興資金が、その 13 番目のものとなっています。

特別資金のうち 12 番目の標記研究振興資金は、昭和 59 年に設定されたもので「少壮研究者の研究奨励ならびに育成」を目的としていますが、現在まだ 400 万円弱の規模にしかならず、事業を開始できない状況にあります。

今後とも会員および関係者の皆様のご協力をいただき、いずれ今回の鉄鋼研究振興資金とは異なった性格の助成事業に有効活用させていただきたいと存じております。

研究振興資金へのご寄付御礼

去る 4 月 2 日本会副会長を退任され、顧問に就任された木下 亨殿から、標記資金として 30 万円のご寄付をいただきました。

会員を代表して厚く御礼申し上げます。

会長 森田善一郎

研究振興資金へのご寄付お願い

このたび左記のとおり、前副会長木下 亨殿からご寄付いただきましたこの資金は、叙勲、褒章、表彰等あるいはその他の慶弔に際し、皆様のご厚志をいただく受皿としても活用いただけるもので、いわば鉄鋼研究に対する赤い羽根、緑の羽根運動としてご理解していただきたいと思います。

金額に係わりなく随時受け付けておりますのでご寄付くださいますようお願いしております。

会長 森田善一郎